

## 令和8年度 第1回八幡地域協議会 会議要録

日 時：令和8年5月22日(金) 19:00～20:45

場 所：郡上市役所本庁舎 4階 大会議室

出席者：(八幡地域協議会委員)

加藤徳光、山田昌昭、和田敦雄、三嶋友美、村瀬正人、武藤政則、永吉剛、田中武之、武藤里恵

(オブザーバー：市議会議員)

本田教治、大坪隆成、和田樹典、池戸郁夫

(事務局)

和田八幡振興事務所長、高田市民協働課長、酒井課長補佐、松井協働推進係長

欠席者：(八幡地域協議会委員) 細川竜弥

傍聴者：なし

(開会 19:00) 進行：高田市民協働課長

### 1. あいさつ

事務局：委員の快諾に感謝申し上げる。今年度より体制を変えて、地域で活躍し、地域に携わっている方に委員を依頼した。八幡地域全体の課題もあるが、昨年度のヒアリングを経て、なぜ取組みができたのか、あるいはどうして失敗したのかを共有できる場としていきたいと考える。これからの地域協議会を共に歩を進めていきたいと考える。

合併を知らない職員や市外出身の職員も増えてきたが、専門的な知識は市の職員にあるので、活用してもらいたい。

郡上市全体で約 100 人の出生児数となっており、5 年後の八幡地域の小学校もかなりの人数が減少すると予想され、時間的猶予がない。踏みとどまれるようやっていきたい。

### 2. 委嘱状交付

### 3. 役員選出

(選出方法については事務局案の提案に対し、審議することとした。事務局案承認)

#### 4. 協議事項（議事進行：会長）

##### （1）令和7年度八幡地域協議会実績報告及び決算報告について … 資料1

令和7年度八幡地域協議会実績報告について、資料により事務局から全体説明を行った。監査報告については前年度監事了承のもと、事務局より報告した。

（質疑・意見なし）

##### （2）令和8年度各地区の活動予定について … 資料2

令和8年度八幡地域協議会事業計画及び収支予算書について、資料により事務局から全体説明を行った。その後、各委員より令和7年度の活動実績に対する補足説明及び令和8年度の活動予定について説明があった。

（説明）

委員①：郡上八幡まちづくり会議

##### ①（1）周縁部活用見える化事業（わくわくこみち）

昨年度は上日の出町と山本町で実施した。主要な通り沿いには出店があるが、主要な通りから一本入った小道には出店が少ないほか、空き家が多数ある。しかし、車が通らない小道にも魅力がある。小道からエリアへ魅力を広げる取り組みを行っている。

##### ①（2）周縁部活用見える化事業（暮らしの拠点施設活用事業）

空き家対策モデルとして村田邸を活用し、様々な団体が活動できる拠点を整備している。

##### ②郡上八幡「智」の情報共有事業（報告会）

まちなかを題材として卒業論文を執筆した早稲田大学、法政大学、愛知工業大学の学生による成果発表会を八幡産業振興公社2階において行った。以前は水の学校で卒業論文の発表会を行っていたが、まちの人にも聞いてもらいたい思いで、令和7年度は独自事業として実施した。令和8年度も実施予定である。

##### ③暮らしの拠点活用事業

50軒弱基金を活用した空き家改修を行っていたが、基金が少なくなることから自前でお金を生み出すことが大切であるとする。家の見守り制度を構築し、つながりを絶たない工夫を試みている。

また、縁泊事業と称し、旅行者ではなく、八幡を詳しく知りたい人（研究調査を行う学生等）、すなわち八幡に縁のある人が宿泊し、交流の場所を作っていくたいと考えているほか、メディアサイトも作っていくたい。

その他

会員の高齢化もあり、新しい人材の加入も進めていきたい。

委員③：川合東部地域づくり協議会

前年度に引き続き、継続すべきことを継続していきたいと考えている。また、土里夢を支援できるような取組みができたかと考えている。上記取組みにより地域を盛り上げられるようにしたいと思う。

委員⑤：相生地域づくり協議会

道の駅構想に重点を置きながら活動を進めたい。

①あいおい楽市楽座

令和7年度の荷車楽市楽座からあいおい楽市楽座に名称を変更した。

②アイオイパーティー

今年度も八幡西中学校を会場として実施したいと考えている。

③駅前踊り

準備委員会を設立し、2回会議を行っている。委員の内、1名は郡上八幡が好きなため、愛知県からリモートで参加している。

その他

令和6年度まで特産品開発事業を実施していた。(収益事業のため実績報告書には未掲載。)ゆず、ブルーベリー、いちごを材料としてジャムを開発したほか、ゆず、ピーマン、くるみを材料として味噌を開発した。令和7年中に道の駅明宝、旧庁舎記念館で販売した。

駅前踊り、相生祭は公民館の事業であるが、公民館と協力し、地域を盛り上げたいと考えている。

委員⑦：西和良まちづくり協議会

①西和良ふるさと祭り

引き続き開催し、西和良で育った人が戻ってくる機会になってほしいと願っている。

②西和良農泊研修会

郡上の、日本の暮らしを知ってもらうため、修学旅行生の受入れを行っている。大阪の中学生は、カエルが鳴いていること、田に入ると音が消える感覚、野菜がなっていることなどが新鮮な体験として楽しんでいた。農泊実践者の発表と交流の場を設けている。

③協議会 PR

協議会の認知度を高める必要があるため、継続してPRする。

その他

子どもが少なく、次世代が少ない状況である。

委員⑧：小那比夢ビジョン実行委員会

①小那比地域振興・交流促進事業

単独の事業ができておらず、公民館の活動が衰退すると寂しくなると感じる。納涼大会や文化祭など公民館の活動に協力し、今までのとおり盛り上げたいと考えている。

その他

小那比の PR として小那比茶を宣伝したいと思う。例年岐阜大学生の茶摘み体験を実施していたが、今年度は高齢化で昼食が用意できないほか、大学からも依頼がなかった。

現在もお茶刈りが真っ最中であるが、行う人が 10 人もいないことから負担が大きい。しかし、できる限り続けていきたいと思う。

委員②：川合西部地域協議会

公民館の事業に参画するかを検討している。

また、コロナ禍前に一度長良川沿いの桜の植え替えを行った。場所の選定が大変であるが、復活させたいと思っている。

委員④：小野みんなの会

発足してから 1 年足らずであるので、他地域を参考にしたい。会議を重ねており、各団体（自治会、公民館、消防団、女性の会）から課題の提供を受けている。また、公民館と自治会を連携させて課題解決ができた事例があることから、接着剤のように横の連携ができるような働きかけをしたいと思う。

公民館活動が活発で、様々な行事ができていますので、何か新しくやりたいと思う。

神楽には若い人も参加してくれるので、世代交代ができています。地域に引き込める体制を作っていきたい。

委員⑥：那比地域づくり協議会

現在活動ができていない。公民館の活動はできているので、タイアップし、既存の事業に参画して広げていきたい。ゆくゆくは、公民館でできないことに取組みたい。

イベントを企画する人の高齢化が進み、役ばかりが増え、地域に負担がかかっている。小さい地域にあった在り方や連携を探っていきたい。

(質疑・意見交換)

委員⑨：小那比茶の他に商品の開発は行っているのか。

委員⑧：郡上高校の生徒が小那比茶プリンを開発したほか、大和にある道の駅では小那比茶を使ったシュークリームを販売している。量は少ないが、特別支援学校で小那比茶を使ったクッキーを製作し販売している。

委員⑨：以前小那比茶を使ったソフトクリームの開発を聞いたことがあるが、地元の方が商品開を行っているのか。

委員⑧：地元で開発したが、コロナ禍で販売を中止した。現在は道の駅美並で展開されている。

委員⑨：小那比は人手不足でありながら、上手く取組んでいる印象がある。

委員⑧：相生マルシェでも販売させてもらったことがある。茶摘みは農家だけではできない。みんなで支える必要がある。

委員④：現在抹茶ブームであるが、抹茶は作れないのか。

委員⑧：抹茶にするには、別の製法となるため、難しい。

事務局：日が当たらないようにする作業が大変である。

委員④：相生においてジャムなどの特産品開発はどのような体制であるか。

委員⑥：調理師や女性を中心に開発した。小野で建物を借り、保健所から営業許可を受け、手作りで作っている。地元産にこだわっている。

### (3) 住民自治基本条例と市民協働によるまちづくりについて … 資料3

資料により事務局から説明を行った。その後、各委員より質疑及び意見を伺った。

#### (質疑応答)

委員①：八幡地域の小学校の統廃合は進むのか。

事務局：教育委員会では検討しており、いずれは進めざるを得ない可能性がある。中学校において、学年が半分になることから生徒数が大幅に減少するなど小学校より深刻な状況である。

委員③：地域運営組織の設立については政治的な判断があるのか。また、レッドゾーンやイエローゾーンなどに家を建てることのできないから、コンパクトシティのような居住地誘導はあるのか。

事務局：現在郡上市においては、コンパクトシティの構想を掲げていない。資料の補足説明となるが、現在の体制はイメージ図についてと相違ない状態で、すでに連携が進んでいる。

郡上市は過疎地域であるが、昭和55年から令和2年の人口減少率を見ると、八幡町で33%の減、大和町で15%の減、白鳥町で18%の減、高鷲町で15%の減、美並町で27%の減、明宝で39%の減、和良町で43%の減少となっている。明宝と和良は昭和45年から過疎地域であるが、北部地域では減少率が低

く、南部地域の減少率が高い状況である。

小学校区の縮小も今後あるかもしれないが、委員からの意見もあったとおり、横の連携をとることが重要である。

委員③：公民館の行事を実施しても参加者が少ない。同じことができない。

委員④：地域運営組織の図に PTA 学校連絡協議会があるが八幡中学校に PTA がないと聞いたが本当なのか。

事務局：現在都市部を中心に任意団体であることから PTA に加入しない保護者もいる。

岐阜県の PTA 連合会から脱退した市 PTA 連合会もあると聞く。大和、白鳥において任意制に切り替えたと聞いており、推測になるが八幡中学校の PTA が任意制になり、保護者会のような組織になったかもしれない。

(オブザーバー講評)

会長より出席いただいたオブザーバーに意見、講評を伺った。

オブザーバー①：日頃、地域の中で様々な活動を通じて盛り上げていただいていることに、心から感謝申し上げる。審議会から地域協議会へと形を変え、自分自身も地域協議会の委員であった時期もあった。当時は活動交付金がなかったが、活動交付金が設けられるようになったので、ぜひ活用されると良いと考える。

また、相生地域では道の駅構想を掲げているが、那比地域と協力して、本構想が盛り上がっていけると良いと思う。

オブザーバー②：今回参加できてとてもありがたかった。やむを得ないかもしれないが、明宝と和良は図書館がなくなり、端部から様々なものが消えていく。八幡の市街地には3つの神社があり、以前は仲が良くなかったが、いずれ祭りをやれなくなるかもしれない危機感から情報共有をすることとなった。懇親会からスタートしたが、時間はかかったものの、共有できるようになった。

昔は徒歩で移動していたが、今は車で移動することができ、八幡地域内も移動しやすくなった。地域が近くなったと感じられ、連携が進むと良い。

オブザーバー③：自分自身も委員であった時期があり、様々な課題を協議した。各地域が取り組みたいことを取り組むことができるような体制に進められたらと思う。

オブザーバー④：組織が変わったこともあり、多人数から少人数となったことで協議がしやすくなったと思う。現在の市政において一生懸命やるところに市の支援が厚くなる方針である。地域運営組織を検討する中で、同じ

ことをするのではなく、次へ次へとつながる取組みになると良い。

## 5. その他

該当内容について事務局より説明。

(質疑)

会 長：今後の会議についてはどの程度の頻度か。

事務局：現在未定であるが、ワークショップなど実務的な情報について委員同士で共有  
できるような場を設けたいと考えている。

閉 会